



御社殿屋根銅板 葺替工事竣功記念

<https://www.takase.or.jp>



高瀬神社 社報

越中一宮 特別号

令和5年11月1日



撮影
本保栄司





ご挨拶

宮司 藤井秀嗣

令和四年七月から進めて参りました本社御本殿をはじめとする御社殿屋根銅板葺替工事が完了し、畏くも天皇陛下より幣帛料を賜り、本殿遷座祭並びに奉幣祭・奉祝祭を齎行しました。

戦前の神社制度において社格が設けられていました。当神社は正十二年に県社から国弊社に昇格しました。社格に相応しい御社殿を造営するため、昭和十七年に国家主導で工事が始まりました。ところが本工事開始直前に終戦となり、工事は中止となってしまいました。現在の御社殿は戦後の物資も資金も無い時代に篤志家・氏

子・崇敬者など各方面から寄せられた奉賛金、材料により造営されました。中には散居村の屋敷林や近隣の山林から切り出された杉材もありました。日々の生活も大変な時に造営事業を進められたご苦労は相当なものだったに違いありません。このように多くの方々のご真心によって完成した御社殿は大切に、末永く後世に伝えていかねばならないと常々考えています。

近年の御社殿の屋根は前回の葺き替えから五十年が経過して劣化が進み、頻繁に雨漏りする状況でした。一時しのぎの手を加えていましたが、とうとう葺き替え工事が必要な状態となりました。責任役員はじめ、関係各位に相談し、工事計画を策定。実際に動き出し

始めたところで新型コロナウイルス感染症の蔓延が起こり、奉賛活動の停止を余儀なくされました。氏子各位はもとより、国民全体が不安な生活を強いられている状況下に事業継続は可能かと思案していましたが、多くの方々から趣旨をご理解いただき、少しずつ前進し始めました。戦後の厳しい時の造営もこのような状況だったのだらうと想像しながら、今回も大神様の御加護と氏子・崇敬者各位の真心こもるご奉賛は必ずいただけると、大丈夫、と信じて取り組みを進めました。実際に大神様のお導きのもと、大勢の皆様から温かいご支援ご奉賛を賜りました。このことは誠にありがたく、心から厚く御礼申し上げます。

工事は施工会社 森田建設(株)の尽力により予定通り進捗しました。が、感染症の世界的蔓延とロシアのウクライナ侵攻により資材価格が高騰し、予算を大幅に越えることになりました。しかし、計画変更は行わず、やるべきことは全て実施しました。

この度の屋根の葺き替えに併せて御本殿の壁や床の補修を行い、

さらには内陣の御帳台(御祭神の御神座)、幕、御簾、浦安の舞装束、向拝賽銭箱などの各種調度品も新調しました。伊勢の神宮の御遷宮は、御社殿、調度品など全てものを新しくすることで神様の御力が蘇り、更なる御加護がいただけるといわれています。当社社の大神様も同様に、新しく葺き替えられた御本殿にお入りになり、今まで以上の御力を私たちに与えてくださることを期待しています。

悠久の歴史と伝統に基づく「越中一宮」の名に恥じぬよう、責任をもってご奉仕に励むとともに、今後も氏子・崇敬者の厚い信仰をうける神社として在り続けるといふ使命感をもって神明奉仕に励んで参ります。

先人から連綿と受け継がれてきた伝統と文化を守ることは神社に課せられた大切な役割です。これからも御社頭の尊厳護持を図り、御神恩に報いると共に御神威の更なる発揚に努めて参りますので、今後とも変わらぬご崇敬を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

御祝



富山県神社庁
庁長 平尾 旨明

高瀬神社におかれましては、この度、御社殿屋根修復事業を無事立派に完成され、本殿遷座祭、奉幣祭が厳肅に斎行されました事、衷心よりお祝い申し上げます。

コロナ禍の三年間、藤井宮司様を始め神社職員の皆様、また氏子崇敬者の皆様には募財活動、更に本殿遷座祭、奉幣祭のご準備に大変なご苦労をされた事と深く敬意を表したいと存じます。

高瀬神社は富山県を代表する神社の一つで神社庁の総会などの会場や富山県内外の神職や神社関係者が集う場として利用させて頂き私ども大変感謝を致しております。

この度の御社殿屋根修復工事の竣功により高瀬神社の御社頭が益々賑わい、高瀬神社の大神様の御加護により氏子崇敬者の皆様が愈々御健勝御多幸にお過ごしになりますようお願い申し上げます。挨拶とさせて頂きます。

祝辞



南砺市長
田中 幹夫

御社殿屋根銅板葺替工事の竣功、心よりお喜び申し上げます。多くの氏子崇敬者、また地元企業の皆様、ならびに神職はじめ関係各位の熱意とご尽力に深く敬意を表します。

高瀬神社は大正十二年に氏子崇敬者の皆様の並々ならぬ熱誠をもって「国幣社」への昇格を果たされ、昇格百年の節目となる今年、神社を信仰し、尊崇の誠を捧げておられる人々にとって記念すべき年であります。

地域の皆様から資金や木材の寄付があり、昭和二十三年に新御社殿の完成、昭和四十八年には屋根が檜皮葺きから銅板葺きになったと伺っております。

五十年が経ち、雨による腐食や経年の傷が目立つようになり、昨年八月から本殿や拝殿、回廊など六カ所の屋根の修復工事が開始され、計二万枚もの銅板が葺き替えられたとのこと。関係各位のご努力にあらためて敬服いたします。

高瀬神社は子授け、縁結び、医療薬、五穀豊穡など、祈るほどに「縁」が結ばれると、日々たくさんの方が訪れ、結婚式も執り行われており、人々の幸せな晴れの日を長きに亘り見守ってきました。

初詣には大勢の参拝者で毎年賑わいます。南砺市民にとっても、心の拠り所として欠かせない場所であり、市としても引き続き、できるかぎり協力をさせて頂いてきたことと考えております。

結びに、記念すべき年を迎えられました高瀬神社の弥栄、また氏子崇敬者各位の今後ますますのご壮健とご多幸をお祈り申し上げます。挨拶といたします。

光輝く御社を祝いて



高瀬神社
責任役員
石岡 敬夫

九月二十四日、越中一宮 高瀬神社の「御社殿屋根銅板葺替工事竣功」を記念する奉祝慶賀祭が執り行われました。

「祭り」とは「神と人とが一体となり、真釣り合う姿、神の教えを正しく受け止め、神人合一し和み楽しむ場である」と教えてい

ただいたことが思い出されました。ここには、その姿があったのです。東京大衆歌謡楽団の皆様の奉納演奏では、多くの方々の中に座し、往時を思い起させる軽妙な会話や数々の演奏にウットリとしながら、心身ともに悦楽の世界に誘われていく…。と共に私の脳裏には、ここに至るまでの様々な出来事が浮かんで消え、消えては浮かんでくる…。

宮司様から、御社殿屋根の雨漏りの状況をお聞きした時のこと、それに対処するために開かれた宮司様・西田明男様・藤井秀之様方との役員会のこと。そして、高瀬神社の氏子の皆様方をはじめ、多くの方々への葺き替え工事費用のご奉賛のお願いのこと。また、いよいよ工事が始まるに当たっての仮殿への遷座祭や、お戻りになられての奉幣祭など、まことに厳肅で、この世の中にこれほどの行事があることに驚愕の念を禁じ得なかったことなど…。

それに致しましても、素晴らしい天候に恵まれました。天地の神々様からの、高瀬の神様・宮司様はじめ神社職員の皆様・氏子・崇敬者、その他多くの皆様への祝意の表われであったのだろうかと感じ入っております。

惟神 高瀬の御社 神々し
葺き替え屋根ぞ 光輝く



御社殿屋根銅板葺替工事 竣功によせて



森田建設株式会社
代表取締役
森田市五郎

この度の工事完成をお祝い申し上げます。この工事に御縁をいただきました事は弊社にとりまして、大変光栄な事と感謝致しております。

工事を進めておりますと、社殿の移り変わりの跡が見えて来ます。昭和四十八年には神饌所が増設されています。昭和六十一年には拝殿の向拝柱が二本柱から四本柱になり、向拝の上に唐破風が新設され、この姿が現在に至る高瀬神社の外観となっております。

前回の御社殿の銅板の葺き替えは、昭和四十七年でした。五十三年振りの工事となりました。良くぞ持ち堪えてくれました。皆様から「銅板の寿命は何年か？」とよく聞かれます。これほど難しい質問はありません。近隣に化学工場が在れば、化学変化が生じやすく腐食が早まる場合があります。海岸ぶちの社殿の例では、海側の銅板は既に寿命が過ぎており、山側は健全でした。東京九段下の日本武道館の例では、屋根が銅板葺きでしたが、自動車の排気ガスで一

向に、緑青^{ろくしょう}が吹かず、腐食が殆どありません。この、緑青^{ろくしょう}は銅本体を腐食させないように酸化被膜として保護しているのです。令和二年の武道館の屋根の葺き替えの際には、銅板に前もって薬品で、緑青^{ろくしょう}を吹かせ、緑青銅板^{ろくしょうどうばん}として葺き直しました。

こちら高瀬神社の社殿銅板屋根の環境は大きな樹木に覆われて、炭酸同化作用のまっ只中に立地しており、誠に、緑青^{ろくしょう}の発生しやすい状態にあります。

高瀬神社様には自然環境に恵まれた境内、熱心な氏子様、多数の崇敬者の方々と共に益々栄えられますこと、お慶び申し上げます。おめでとうございます。

笑門来福



高瀬区長
岩倉保男

御社殿屋根銅板葺替工事の竣功を心よりお祝い申し上げます。

この修復事業完了というおめでたい時の区長として、皆様のお力をお借りし、祝賀行事の運営に携らせて頂きましたことを、大変光栄に思います。

去る二月二十日の仮殿遷座祭、



東京大衆歌謡楽団

歌 高島孝太郎

高瀬神社様、また高瀬神社氏子の皆様方、御社殿屋根銅板葺替工事竣功おめでとうございます。より多くの大神様への崇敬の念が集まり、これからの世を明るく照らされることを願っております。

そして九月二十日の本殿遷座祭と、日常とかけ離れた幻想的な神事に感動し、奉祝慶賀祭には氏子の皆さんと共に、道化(天狗・高砂)を先頭に神輿、宝船(米俵・菰樽)を、笛太鼓による奉納行列を無事ご奉仕させて頂きました。そして北市の獅子舞保存会、越中いさみ太鼓の皆さんにご協力を頂いたの演奏奉納、更にはご神前にてお祓いを受けた紅白餅を、お集まりの皆様「福」が来ますようにと願いを込めて撒かせて頂きました。一連の行事にご尽力頂いた皆様に感謝申し上げます。今後も氏子として高瀬神社様の行事に関わらせて頂きたいと思っております。

アコーディオン 高島雄次郎

道明寺天満宮の南坊城宮司様からのご縁により、高瀬神社様で奉納演奏をする機会をいただきました。その後、奉祝慶賀祭にお呼びいただき、ここでもまた奉納演奏の機会を賜りましたことを、大変喜ばしく思います。ありがとうございます。

ウッドベース 高島龍二郎

御社殿屋根銅板葺替工事竣功おめでとうございます。十月に竣功前の姿を拝見し、今新しくなった屋根を見させていただいて、自分も新たな思いでいろいろなことに頑張っていけるような気持ちになりました。これからもよろしくお願致します。

バンジョー 高島圭四郎

御社殿屋根銅板葺替工事竣功奉祝慶賀祭にお呼びいただき、とても光栄です。前回の奉納演奏の時よりも多くの皆様にお越しいただいたことにより、とても熱のこもった演奏が出来たと確信しております。



東京大衆歌謡楽団 奉納演奏
東京大衆歌謡楽団の皆様には、昨年10月23日に続き、今回二度目の奉納演奏を賜りました。素晴らしい歌と演奏をありがとうございました。

お名前の敬称は略させていただきます。ご寄稿いただきました皆様にご心より御礼を申し上げます



幣帛料、賜る。

去る八月二十三日、当神社宮司は宮内庁に赴き、今般の御社殿屋根銅板葺替工事の竣功と、本殿遷座祭を迎えるにあたり、天皇陛下よりの幣帛料を賜りました。

幣帛料は九月二十一日の奉幣祭にて大前に奉り、これより後も越中の国一宮の大神様として、末永くお鎮まり願ひ、守り導きいただけるよう、心を込めてご奉仕いたしました。



幣帛料のご奉納を知らせる立て看板

祭事・式典の記録

国幣社昇格百年を記念して、平成二十九年より計画を進めていた「御社殿屋根修復事業」。本計画の実施にともない斎行された祭典と、祝賀会・感謝状贈呈式など式典の様子をご報告します。

仮殿遷座祭 二月二十日

宵闇の午後六時、本殿工区の本格的な工事の開始を前に、大神様には参集殿二階の大広間に整えた「仮殿」にお遷りいただきました。



- 1 威儀物を手に執り遷御の儀を奉仕する氏子の皆様
- 2 宮司の奉戴により「仮殿」へとお遷りになるご神体
- 3 無事、遷御の儀を終え、仮殿大前にて祝詞を奏上する宮司



本殿遷座祭 九月二十日

この日、当神社神職・巫女に加え、ゆかりの深い神職、氏子の皆様の奉仕により、無事竣功を迎えた本殿へと大神様にお戻りいただく「本殿遷座祭」を斎行しました。

遷御の列は仮殿をあとに、御帳台をはじめ多くの調度を新調した内陣へと続き、静寂の中に響く警蹕だけが、闇中の空気を震わせていました。

高瀬神社での本殿遷座祭は、およそ五十年ぶりの斎行となります。



高瀬神社での本殿遷座祭は、およそ五十年ぶりの斎行となります。



工事の完了した本殿にお遷りになるご神体

- 4 遷御の儀を前に献いを受ける神職
- 5 本殿に戻られた大神様に神饌をお供えする
- 6 捧持した威儀物を授受する氏子と神職
- 7 本殿遷座祭を終え、神職・奉仕氏子・参列者揃っての直会



今般、「浦安の舞」装束も新調した



奉幣祭 九月二十一日

本殿遷座祭から一夜明けた翌九月二十一日、天皇陛下より賜りました「幣帛料」を大前に奉る「奉幣祭」を斎行しました。

当日は、平尾旨明富山県神社庁長に献幣使をお務めいただき、ご奉賛の真心をお寄せいただいた大勢の皆様ご参列のもと、連日及び祭事を中心と成す重要祭祀を、滞りなく厳修することが出来ました。



幣帛料は宮司により大前に奉献された



平尾庁長ご挨拶



奉幣祭後の祝賀会。笑顔のたえないひとときとなった



宮司挨拶



西田吉輝様へ感謝状の贈呈

献幣使随員より禰宜に伝供される幣帛料



田中市長ご挨拶

奉祝祭 九月二十二日 奉祝慶賀祭 二十三日 二十四日



九月二十二日、二十三日の両日には、「奉祝祭」、また二十四日には「奉祝慶賀祭」を斎行し、様々な神賑行事により境内は賑わいました。

感謝状

今般、皆様にお受けいただいた感謝状はガラス製のものと同額に入れてお飾りいただくもの二種。ガラスの感謝状の作製は北陸新幹線の車両窓ガラスを手掛ける高岡市のガラスメーカーに依頼しました。



ご奉賛いただいた皆様への

御礼の品

記念品

当社社殿前で皆様をお出迎える「なでうさぎ」を模ったピンバッジは、指先でそっと触れることで、毎日を健康にお過ごしいただきたいとの願いを込めて考案しました。



- 1 奉祝慶賀祭にて傍田昭治様に感謝状を贈呈
- 2 奉祝祭式典での宮司挨拶
- 3 奉祝祭式典にて岩倉 勲様に感謝状を贈呈

より高く、
より遠くへ！

紅白幕たなびく仮設の檣では、氏子の皆様によって奉納された丸餅が、大神様のおさがりとして盛大に撒かれました。行事の最後には、餅を受け取れなかつた方々にも、ひとつひとつ心を込めて配られました。



一つひとつ心を込めて配られました。

お稚児さん、
がんばれ！

午前十時には、親御さんに手を引かれた可愛らしい一〇〇名のお稚児さん達が、久しぶりに大神様の戻られたご本殿の周りを、元氣な笑顔で巡りました。大神様の優しい微笑みが目に浮かびます。



奉祝
稚児行列



餅まき



北市獅子舞保存会の皆様渾身のお獅子は文字通りの人気栄富栄富！大勢の人の輪の真ん中で舞い踊る獅子方は、祝賀の庭を大いに盛り上げてくれました。

御酒肴

ざい 珈やま！

奉祝慶賀祭
神賑行事

越中
いさみ太鼓



獅子舞

昭和二十七年より活動を続ける、越中いさみ太鼓保存会の皆様による太鼓の演奏は、まさに打ち込みの力強さが身上で見つめる皆様も、気迫のこもったパフォーマンスに引き込まれていました。

秋空に轟く、
勇壮な撥裁き！



神社でぞ縁
マルシェ



氏子
奉納行列



普段は披露宴会場として新郎新婦の門出を彩る新参集殿では、ワークショップや物販、お子様向けの催し、またベールショップなどのキッチンカーが出店し、お祭りに賑わいの花を添えました。

楽しいこと！
美味しいもの！



この日、岩倉保男高瀬区長を中心に、礼服に小忌衣を身に纏った氏子の皆様は、大鳥居から参道を練り、ご本殿にて祝賀の品の奉納式に臨みました。氏子の皆様の心意気に、深く感謝申し上げます。

氏子の真髓、
大前に奉納。



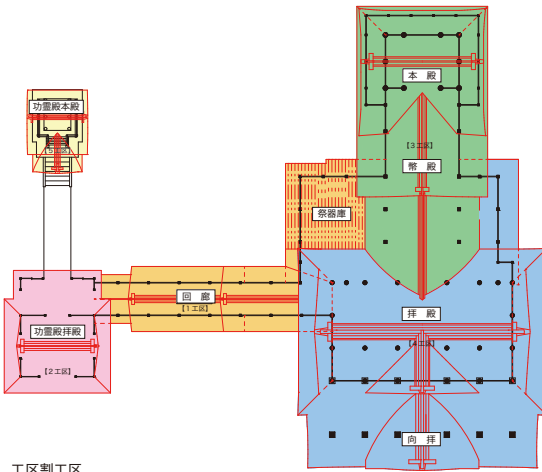
工事の記録

本事業「御社殿屋根銅板葺工事」は、ご奉賛いただいた皆様、また関係各位のお力添えによりまして、本年九月に無事竣工致しました。本項ではその施工記録をご報告します。

第一工区 回廊・祭器庫

(令和四年七月～九月)

拝殿と功霊殿拝殿を結ぶ回廊及び祭器庫屋根から、およそ一年半に及ぶ葺き替え工事が開始されました。



工区割工区

- 【1工区】回廊/祭器庫
- 【2工区】功霊殿拝殿
- 【3工区】本殿/幣殿
- 【4工区】拝殿/向拝
- 【5工区】功霊殿本殿



二月、遷座祭に向けて参集殿二階に設えの進む仮殿



足場材に囲まれた功霊殿拝殿

第二工区 功霊殿拝殿

(九月～十一月)

天保七年に建てられ、昭和二十四年に本殿西側に移築された旧本殿、「功霊殿」の拝殿屋根に着手。



施工最初期。職人さんが回廊屋根の古い銅板をはがす

第三工区 本殿・幣殿

(令和五年三月～九月)

本殿最上部に聳える千木・鯉木・鬼飾りを一旦下ろして復元、元の位置に据え直すなどのレック作業を実施。



レック車により千木・鯉木を釣り上げての据え付け作業

第四工区 拝殿・向拝

(六月～九月)

本工事で最も作業面積が大きかった箇所。計六、三三三枚の銅板が葺き替えられ、飾り金具類もすべて改修されました。



輝きを放つ葺き替え直後の美しい拝殿屋根。氏子の皆様を対象とした見学会も行われた

第五工区 功霊殿本殿

(九月～十一月)

本工事の最終工区。九月下旬より開始され現在進行中の葺き替え作業は、本年十一月下旬に完了します。



功霊殿本殿屋根の葺き替え工事の完成を以て、本事業は完了する

新賽銭箱 向拝に設置



本事業の一環として向拝に設置された新しい賽銭箱は、例えるなら「干支まわり賽銭箱」。三本の鈴緒には過去(去年)、現在(今年)、未来(来年)の木彫りの干支が取り付けられており、そのほかの干支は賽銭箱に飾られています。ご自身に干支飾り、守り神のお導きをお受け下さい。

現場監督の

つぶやき



森田建設株式会社
企画部長 磯辺 哲

今回、越中一宮高瀬神社様の御社殿銅板屋根葺き替え・付属飾り金物改修工事の現場を担当させていただきました。森田建設株式会社の磯辺と申します。

九月中旬に高瀬神社岩田権禰宜より今回の工事完了に伴い神社報の特別号を発刊するので、担当の現場監督として寄稿として依頼されました。いつも笑顔で対応していただいているのでお断りする事も出来ず、また工事中は氏子の皆様やご参拝の皆様にご迷惑をお掛けしてしまいましたのでお詫びのかわりとしてお引き受けさせていただきました。また、森田建設に再就職し、始めて担当する現場なので私自身の備忘録のつもりで記させていただきました。

「始めて担当する現場？」と疑問を持たれる方もいらっしゃるかと思いますので、少しだけ自己紹介させていただきます。私は、令和四年三月末まで富山県県立学校教員として富山工業高校で六年半、高岡工芸高校で二十四年間、建築科の教員をしていました。無事に定年を迎え、森田建設に再就職させていただきました。教員になる前は、東京のゼネコンで五年間勤め、約三十年間ペーパードライバーですが、工事を担当するのに必要な資格も保持しています。平成二年にその国家資格を取得したんですが、その時の試験合格証の発行人は時の建設大臣綿貫民輔

先生で、もしかしたらその時から社寺建築の現場担当になる予定だったのかも知れません。前置きが長くなりましたが、工事のことをつぶやきます。

工事は、昨年八月末より第一工区（回廊・志納殿）↓第二工区（功靈殿拝殿）、今年三月より第三工区（本殿）↓第四工区（拝殿）と進めてきました。その中で工事担当者でなければわからなかったことをいくつかご紹介させていただきます。

□実は焦っていた！

（第一工区回廊にて）

左の画像は、回廊の棟（正しくは、箱棟）の銅板をはがした時のものです。黒ずんでいます。当初使用材の樹脂かと思っていたんですが、実は炎天下の銅板は非常に高温になり、当然その下の木材も高温になります。後で分かったんですが、その下で木材が炭化を起していました。長い年月をかけて炭になってしまったが、燃え上がった事はないのでご安心を。



□屋根の上の屋根！

（第三工区本殿、第四工区拝殿にて）



外からご覧いただいた方も多いと思いますが、九月二十日のご遷座に間に合わせるために工事用の屋根をかけていました。雨の日にも工事を進め

るためのもので、遅れる事もなく工事を完了することが出来ました。が、炎天下の屋根の下は地獄の暑さでした。体感温度で一〇度くらい暑く感じました。板金屋さんには頭が下がります。

□さすが親方！

（第四工区拝殿にて）

この写真は、拝殿の唐破風です。拝殿を見上げるといちばん先に目につく部分です。この場所は、板金屋さんの親方が納得いくまで型取りをして僅か三メートルほどの唐破風に十日以上かけて完成させました。足場がないと見ることが出来ないので、ご紹介させていただきます。



□いち押しアングル！

（第四工区拝殿にて）

このカットは、拝殿の足場から本殿を撮影したものです。



足場上からで見ると、本殿の屋根です。ご覧になる機会はないと思いますが、ご紹介させていただきます。

ちなみに棟の両端部の鬼は、弊社で修復させてもらいましたが、銅板で包んだ状態で約二五〇キロあり、境内の杉の木をかわしなげらレッカーで取り付けました。オペレータの方に感謝です。

□檜皮葺の痕跡

（第三工区本殿にて）

これは、本殿箱棟の千木を取り外した時の状況です。わりやくいですが、千木の下と手前部分に当時の檜皮が残っています。

すが、当時の職人さんたちは二〇〇キロを超える部材を屋根にあげたり、急勾配の屋根にどうんな足場を組んで、檜皮を葺いたんだろうと考えるとか、なんか楽しくないですか？



まだまだご紹介したいことがあるのですが、紙面の都合でどうにもなりませんので、ご容赦ください。本日は、神社のK女氏に2回ばかり叱られてしゅんとしたことや、神職の方が普段は洋服をお召しになり意外とカジュアルだった（藤井宮司は、トラッドだった）とかいろいろあるんですが、この辺りにさせていただきます。もし、ご興味のある方は弊社に工事関連の画像データがありますので、ご連絡いただければご説明させていただきます。

最後になりますが、この度はおめでとうございました。氏子の皆様やご参拝の皆様にご迷惑をお掛けしながらも、ご理解をいただき工事を完了する事ができました。この場を借りてお礼申し上げます。どうもありがとうございます。



広報の記録

高瀬神社では本計画を進めるにあたり、広く事業内容をご理解いただき、より多くの皆様からご支援、ご協力を賜りますよう、SNSをはじめとした様々な媒体を通じて広報活動に力を入れてまいりました。ここでは、そのすべての始まりとなった趣意書「ご奉賛のお願い」など、本事業に関連する刊行物の数々を振り返ります。

ご奉賛のお願い(趣意書)



リーフレット (B5サイズ4ページ)

修復事業概要(完了報告書)



リーフレット (A4サイズ4ページ)

奉祝慶賀祭



フライヤー (A4サイズ片面)

奉祝稚児行列



フライヤー (A4サイズ片面)

神社でござ縁マルシエ



フライヤー (A4サイズ両面)

奉祝稚児行列 お稚児さん募集広告



タクト 8月号掲載 (A4サイズ見開き広告)

本殿遷座祭・奉幣祭・ 奉祝慶賀祭広告



北日本新聞 9月20日掲載 (8段広告)

神社新報 事業の完了を報告する記事



神社新報10月9日掲載
1ページ (545mm×406mm)

編集後記

九月二十日から五日間に亘って続いた一連の関係祭事、その準備は宮司の指揮のもと神職ひとりひとりが持てる力を尽くし、また、細やか且つ大胆なアシストを身上にいつも笑顔で助けてくれた巫女さん達も、気づけば相当頼もしく育っ

ていた。そして何より今回、式典の準備はもとより、その知識と経験を活かしてご参列の皆様のお土産品のセッティング、更にはお稚児行列やマルシエの運営にと遊撃手的八面六臂の活躍だった当社ブライダル事業部には、この先しばらく頭が上がる。[餅は餅屋]を地で行く人達に、感謝。(智)